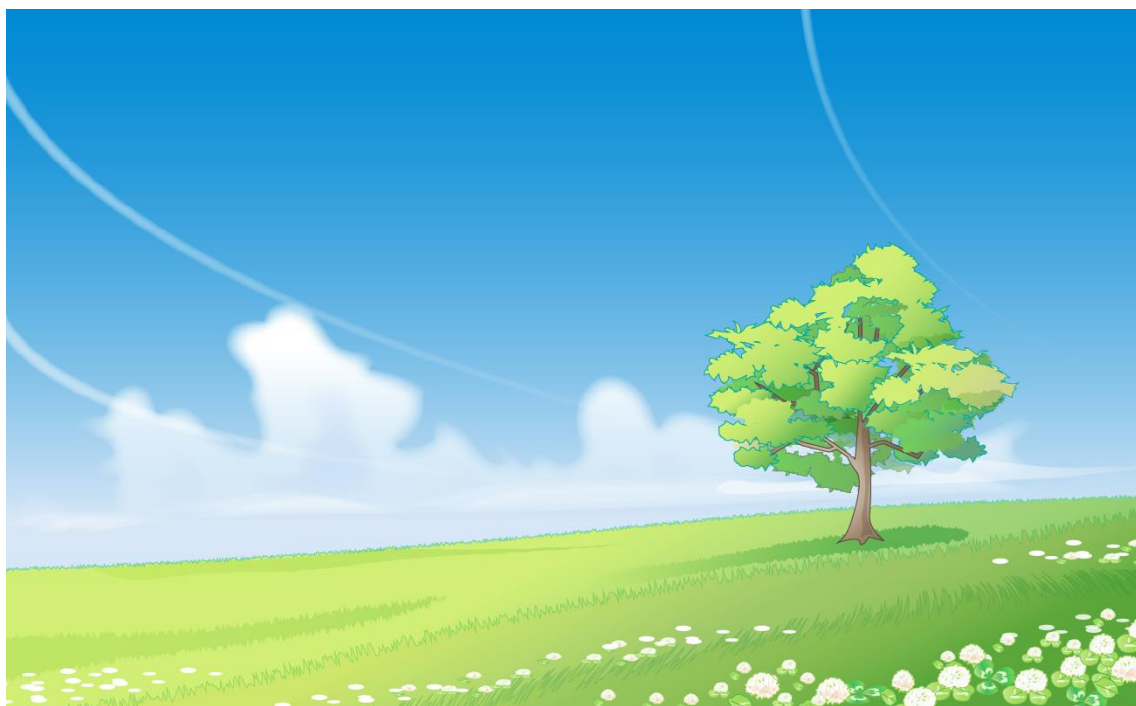


令和7年度

進路のしおり

第3学年 第1回進路説明会

6月13日(金)



文京区立音羽中学校

Ⅰ 進路選択の基本的な考え方

はじめに

いよいよ進路選択に本気で取り組む時期がやってきました。まずは、

①自分の「適性、個性、能力」についてよく考える

②いろいろな情報を集める

最も自分に適した道はどれであるかをよく考え、実際に、自分の希望を実現させるために、学力をはじめとしたいろいろな「力」を身につけるべく努力することが望まれます。

(1) 目的意識・進路への関心

進路選択に当たっては、「自分は何をやりたいか」を考えてみましょう。自分自身の問題であるにもかかわらず、「友だちが行くから何となく」また、「親がすすめるから」というのでは、困ります。

将来どんな職業に就くかは別にしても「だいたいこんな方面へ進みたい」、そのためにはどういふところへ進学したらよいかを考えることが大切です。

(2) 自己理解

進路選択の際に大切なことの一つとして、「正しい自己理解」があげられます。「客観的に、冷静に自分の長所と短所、学力の現状を知り、自分が何に向いているかを考えること」です。本人の希望、適性、能力、保護者の考えなどを考慮し、進路決定をすることが望まれます。

(3) 上級学校・職業の情報

実際に自分の目で見ること。体験学習や学校見学会への参加をすることが第一歩となります。希望する学校の特色や教育内容、カリキュラム、施設などの面を確認すること、学校の雰囲気を感じることが大切です。

(4) 進路計画

まずは、大まかな計画をたてましょう。計画性をもって進めることが大切です。計画通りにいかない場合は、修正しながら実行すれば良いのです。修正を加えつつ継続して実践していくことが重要です。

(5) 生活姿勢

進路選択の時期に大きな影響を及ぼすのは、日常的生活姿勢(態度)です。きちんとした生活習慣や態度は、その人の意欲や気持ちの表れでもあります。卒業まで、音羽中の三年生としての自覚をもち、生活することを意識しましょう。

また、面接試験がある学校も多くあります。面接官は短い時間にその人の生活態度や意欲、心のあり方を見られると言われます。日常的生活習慣や言葉遣い、態度などを意識して行動することが大切です。

2 進路はどのように決めるのか

(1) よく考えること

- ・自分をよく知りましょう。(良い点、改善点)
- ・今、すべきことを考えましょう。
- ・中学を卒業したら何を学びたいか、どんな事をやりたいかを考えましょう。

(2) 自分の個性・能力を生かす

- ・あなたの良いところ、もっとのびしたいところは何ですか。
- ・あなたが苦手としている分野は何ですか。
- ・あなたは自分のどんな能力をより伸ばしていきたいですか。

(3) 家族や学校とよく相談すること

進路選択の最終決定者は自分ですが…

- ・自分一人の判断では、視野が狭くなる場合があります。家族や先生とよく相談しましょう。謙虚に耳を傾けることが大切です。
- ・入学時にかかる費用や奨学金制度も確認しておきましょう。

(4) 情報の入手・分析・検討

志望する学校の各種の情報(場所、校風、施設、カリキュラム、部活動、卒業後の進路状況など)をきちんと入手する必要があります。そのためには「学校見学」(できれば体験授業や部活動体験)が欠かせません。自分で歩いて情報を入手し、分析し、検討し最終的に2~3校に絞り込んでいくようにしましょう。

(5) 「第二志望」は・・・

みなさんが受験できる学校は、国公立、私立を合わせると100校以上にのぼります。その中から2~3校に絞るのですから、第二志望は、「行くことになったら、頑張れる学校」を選ぶことになります。多数の学校の中から、自分の志望にかなった学校だという自覚のもとに選んでいることを確認してください。

(6) 生活リズムを整えよう

夜遅くまでの学習やハードスケジュールによって、生活リズムを崩し、授業に支障をきたしてしまうことがないようにしましょう。

物事の優先順位を見極め、見通しをもった生活を意識することです。進路決定までは、長い道のりです。無理をせず、自分のスタイルを確立して臨んでいきましょう。

3 今後どのように学習に取り組むか

(1) 学習計画を立てよう

まず自分の弱点教科・領域を洗い出し、それに対する対策・計画を立てる必要があります。「1日30分ずつ単語を復習する」「毎日問題集を2ページずつやる」など、毎日の生活の中に、自分の弱点を克服する計画を立ててみましょう。

特に夏休みは、大切です。達成目標を決め、「夏休み中にこれだけは終わらせる」というものを計画しましょう。計画のない人は「気まぐれ、気分」の勉強になってしまい、同じ時間をかけても、効率の悪い結果になり、定着も不十分です。

(2) 授業を大切にしよう

1学期は、1時間ごとの授業を大切にできたいでしょうか。

授業の1時間分は、家庭学習の4時間分に匹敵するとも言われます。公立高校の入学試験には、学校の授業＝教科書の範囲の出題です。授業にしっかり集中し、それに対する予習復習を行う習慣が確立できれば、それだけで受験勉強をしていることになります。毎時間の授業を大切に、力をつけていきましょう。

(3) 受験勉強は1・2年生の復習、そして3本立ての学習へと進めよう

「受験勉強」と言っても、どこから手をつけていかわからないと言う人が多いと思います。入学試験に出題される6割～7割は1、2年生で学習した範囲からです。まず、その学習内容を完全に身につける必要があります。

その上で、3年生の1学期に学んだ内容までを夏休みが終わるまでに復習しましょう。2学期以降は、①3年1学期までの総復習 ②3年2学期の学校の勉強 ③志望校の過去の入試問題集などに取り組み、総合的に力をつける この「3本立ての学習」になります。

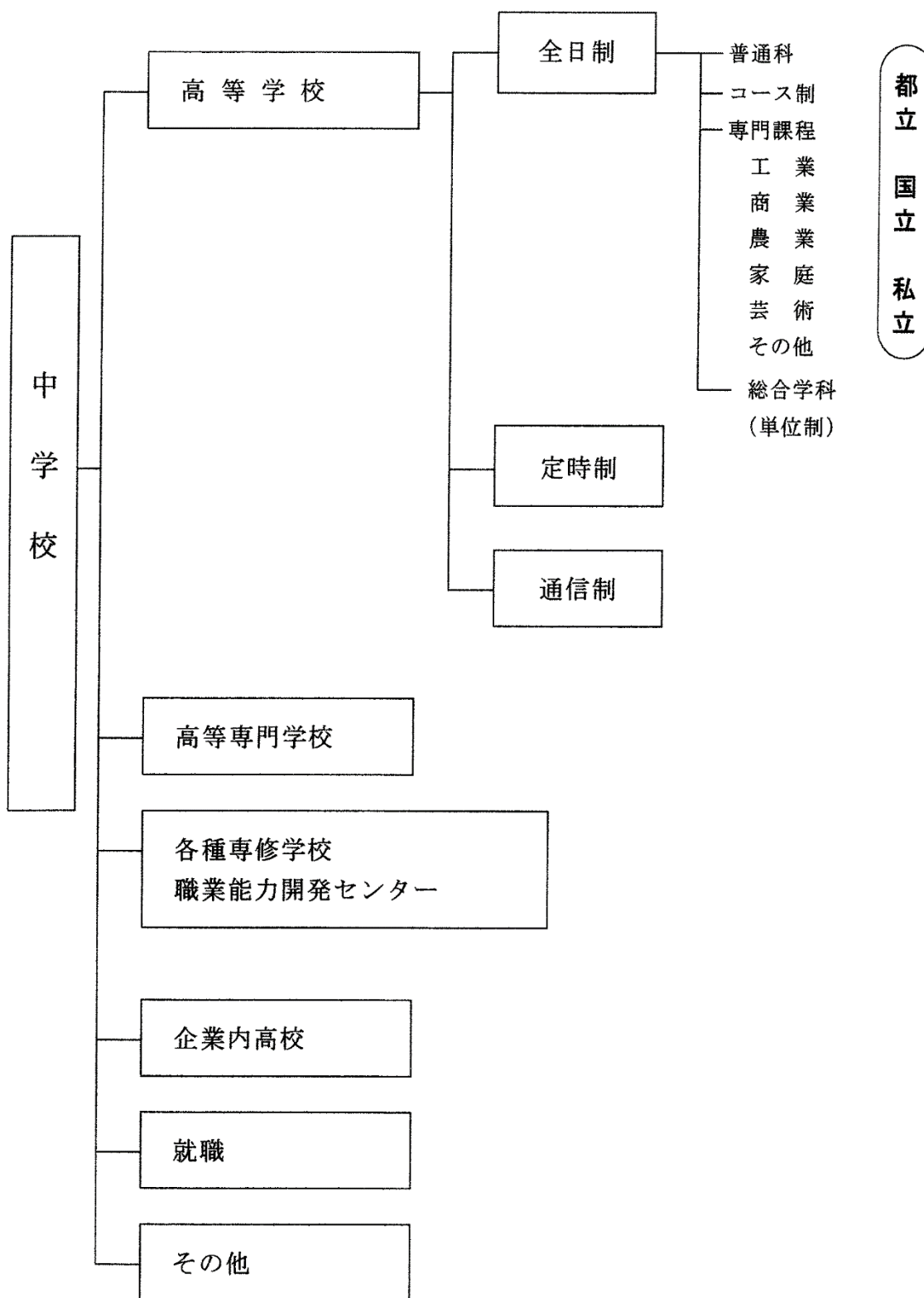
(4) わからないところはそのままにせず

授業を受けてわからなかったところや、家庭学習で解けなかった問題はそのままにせず、なるべく早いうちに先生に質問するなどして、解決を図りましょう。そういう意欲とリズムができてくると勉強が楽しくなり、一段とはかどるようになるはずです。

(5) すべきことをいねいに・・・そしてやりきる

「面倒くさい」という取りかからないままにしていることは、いつも心の隅に引っかかっています。少しずつ取りかかることによって、それは解消されていきます。課題が出されたら、まずはやってみることで、その繰り返しで、自分の自信へもつながっていきます。やりきっていないことを今一度確認し、日常的な学習を再度見直してみましょう。

4 中学校卒業後の進路



(1) 高等学校

①設置者による分類

・国立…国立大学によって設置されている附属高校

教育方針	国立大学の附属高校で、個性的な教育をする。
生活面	生徒の自主性尊重だが、規律等は厳しい。多くの学校が標準服を着用。
進路指導	普通校では、大学進学を前提に、生徒それぞれの個性と適性を見いだしていく指導が行われている。
大学進学	併設大学への優先はなし。いくつかの大学への推薦枠は利用できる。
部活動	併設大学とのつながりのある部活動もある。

・公立…地方自治体が設立して経営にあたる。(都立校・県立校など)

教育方針	各都道府県の教育委員会の教育方針に基づく。
生活面	伝統校は自主性尊重で規則はわりと緩やかだが、最近できた学校は厳しい学校もある。服装は自由か、標準服着用。
進路指導	基本は生徒自身の努力に任せられているが、進学指導に力を入れてきている。
大学進学	学校によって、いくつかの大学や短大への推薦枠をもっているため、成績がよいと利用できる。
部活動	生徒の自主的な運営が多い。

・私立…個人または法人が設立して経営にあたる。(私立校)

教育方針	創立者の『建学の精神』や宗教等により、個性的な教育をする。
生活面	主要教科の時間数を多くしたり、1・2年からコース制の導入や習熟度別授業の実施、補習の徹底等、各校独自の工夫がある。
進路指導	徹底した大学進学指導をする学校が目立つ。設備が整っていて、技術や資格の取得に力を入れ、礼儀やマナーを徹底して指導するところが多い。
大学進学	大学の付属校は、系列大学・短大への優先入学できる。(条件はさまざま)他の大学への推薦枠をもっている高校もある。
部活動	全国的に有名な部活動もあり、設備が充実しレベルも高い。

②課程の違いによる分類

全日制	昼間に授業を行う課程で、修業年限は3年制。
定時制	夜間その他、特別の時間に授業を行う課程で、修業年限は大部分が4年制。私立では、3年制が多い。
昼夜間定時制	午前、午後、夜間の3部制の定時制高校。
通信制	添削(レポート)、面接指導(スクーリング)等の方法によって、通信による教育を行う課程で、修業年限は3年以上(私立は3年) ・都立(一橋、新宿山吹、砂川) ・私立(科学技術学園、北豊島、東海大付属望星など)
単位制	一定の単位(授業)を取得することによって卒業できる課程。学年の区別がなく、3年間の中で自分に適した教科・科目を選択できる。

③教育内容の違いによる分類

普通科	普通科目を中心として教育を目的とする学科。コース制も含まれる。
普通科コース制	特定の教科を多く学習し、そのコースに関連する知識を深めることを特色とする。(深川の外国語・片倉の造形美術など)
専門学科	職業に関する教育(商業、工業、農業、家庭、水産、福祉)や専門教育(芸術、保健体育、国際等)を目的とする学科。 ※令和4年度入試より立川高校「創造理数学科」開設
総合学科	普通科と専門学科などの枠にとらわれず、両方を幅広く学習する学科。(晴海総合・杉並総合など)

この他に、都立高校では特色ある新しいタイプの学校が近年開設されています。

普通科

- ・進学指導重点校 (日比谷、戸山、西、青山、八王子東、立川、国立)
- ・進学指導特別推進校(小山台、新宿、駒場、小松川、町田、国分寺、国際)
- ・進学指導推進校 (三田、竹早、北園、城東、墨田川、江北、他9校)

専門学科

- ・国際に関する高校(国際)
- ・科学技術高校 (科学技術高校、多摩科学技術高校)
- ・デュアルシステム(六郷工科、葛西工科、北豊島工科、田無工科、多摩工科)
- ・進学型商業高校(ビジネスコミュニケーション科)(千早、大田桜台)

多様なタイプ

- ・総合学科高校（晴海総合、つばさ総合、杉並総合、王子総合 他6校）
- ・単位制高校 ⇒

⇒	多様な学習（飛鳥、板橋有徳など）
	進学重視型（墨田川、新宿、国分寺）
	専門型（忍岡、総合芸術など）
	定時制型（新宿山吹、飛鳥など）
- ・チャレンジスクール（桐ヶ丘、世田谷泉、大江戸、六本木、稔ヶ丘、小台橋、立川緑）
- ・エンカレッジスクール（足立東、練馬工科、中野工科、蒲田、秋留台、東村山）
- ・産業高校（橘、八王子桑志）
- ・新たなタイプの昼夜間定時制高校（一橋、浅草、荻窪、八王子拓真）

④性別による分類

男子校、女子校、共学校があります。

(2) 高等専門学校

専門の学習を深める学校で職業に必要な能力を育成することを目的としている5年制の学校です。卒業生は短大卒業と同じ資格となり、大学の3年への編入試験を受けることができます。工業に関する学科を主とし、国立、都立、私立があります。

(3) 専修学校・各種学校・その他

- ①専修学校・・・職業や实际生活に役立つ専門の技能を修得する目的で設立された学校です。工科、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養の8分野があります。高等専修学校の課程には、1年制から5年制までいろいろなものがあり、高等課程の3年制を卒業すると大学受験資格を取得できるところもあります。また、通信制高校と提携している専修学校では、高校卒業の資格もとることができます。
- ②各種学校・・・ICT関連、調理、和裁、洋裁などさまざまな学科があります。学べる分野は専門学校に似ていますが、より実際の仕事や生活に必要な知識や技術を学びます。
- ③その他・・・海員学校や競馬の騎手養成機関などがあります。

(4) 就職

近年は、求人件数が減り、高校受験の結果後では選択が難しくなりました。求人はあっても、賃金等の待遇の良いものはなくなってしまうのが現状です。就職するには、主に次の2通りの方法があります。

①ハローワーク(職業安定所)の紹介…学校→ハローワーク→事業所

9月に求職者名簿をハローワークに提出

↓

10月に求人一覧表をもとに検討 (賃金、仕事の内容・労働条件・通勤距離等)

↓

1月中旬に統一選考 面接・健康診断が主です。

事業所によっては、このほかに作文・教科テスト・適性検査等

選考は定員に満たないからといって全員が採用されるとは限りません。事業所にとって不適當な人は不採用になります。事業所は、第一に健康、そして協調性がある努力する人、真面目で忍耐力があり、規則を守る人が望まれます。

②縁故…家族や親類などの紹介

- ・縁故就職の場合は、勤務条件を確認しておく必要があります。(雇用保険や健康保険などの法の保障)
- ・雇用関係や身分の保障についてあいまいなことにならないように、縁故就職でも、一度担任に相談し、ハローワークを通すようにした方がよいので、早めに担任までお知らせください。

5 入学試験について

【1】都立高校について

○選抜の概略

学力検査等の要項(令和7年度)は今秋に発表されます。したがって令和7年度の選抜の詳しい内容については、秋に行われる第2回進路説明会でお知らせします。ここでは、昨年度の入試要項の概略と現在発表されている事項(東京都中学校英語スピーキングテスト)について説明します。

[令和7年度に実施された内容]

志願校について

①応募資格:都内に住所を有し、入学後も引き続き都内から通学することが確実な者。

②各学校、単独選抜を行います。

③全都立高校の中から1校1コースまたは1科に限り出願できます。

志望する同一の高校内に2コースまたは同一の学科内に2科以上ある場合は、他のすべてのコース、部または科に志望順位をつけて出願することができます。

推薦に基づく選抜について

①推薦入試は、高校により割合の違いはあるが、全学科で行われています。

・学科試験がなく、主に調査書と集団討論・面接・作文又は小論文、実技検査、その他学校が設定する検査の中から一つ以上を実施。

・倍率が高いです。

・一般受験の前に行われるので、推薦入試で不合格になっても、一般受験が可能です。

ただし、合格した場合には、学力検査による選抜の受験資格を失います。

②一度出願すると志願変更はできません。

③調査書の得点は、観点別学習状況の評価(9教科27項目のA, B, C)、又は
評定(9教科の5・4・3・2・1)のどちらか1つを調査書点として点数化します。

④文化・スポーツ等特別推薦があります。サッカー・野球・吹奏楽、合唱、英語、美術等

*一般推薦にも応募できます。

集団討論について

昨年度は一部の学校で実施されました。

実施校：日比谷・竹早・深沢・鷺宮・西・北園・篠崎・調布南・東大和南・永山・東久留米総合

形態：検査官3名に対し、受検生5～7名

時間：30分程度

*テーマについて自分で考える時間を2～3分与えられるケースが多いです。

自己PRカードについて

面接の資料や入試の合否判定資料の一部として活用する資料です。(点数化はされません)

- ・志願者本人が黒のボールペンで記入する。「1志望理由」「2中学校生活の中で得たこと」「3高等学校卒業後の進路について」の3項目を記入。
- ・9月中旬に発表される「本校の期待する生徒の姿」を参考にし、中学校3年間の学習状況や活動状況(各教科・選択教科・総合的な学習の時間、学級活動
- ・生徒会活動・学校行事・部活動・ボランティア活動・資格・検定)から特に、自分がPRしたいことを具体的に記入する。

提出方法は、志望する都立高等学校検査内容等により異なります。

◎ 推薦に基づく選抜……………願書提出時に提出

第一次募集

→ ○ 面接がある場合 → 願書提出時に提出

第二次募集

● 面接がない場合 → 合格決定後、書類提出日に提出

本校の期待する生徒の姿

(例) 戸山高校(令和7年度)

東京都立戸山高等学校では、以下に該当する生徒を募集します。

- 1 文系・理系を問わず幅広い興味・関心をもち、豊かな知識・教養と、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力・創造力を併せもつ生徒
 - 2 集団の中で、他者と協働し高め合い、自らの責任で主体性をもって行動し、社会に貢献しようとする強い意志と高い志をもつ生徒
 - 3 本校の特色をよく理解し、社会生活を送るために必要なマナーが身に付いており、充実した高校生活を創造し、自己の目的達成の場として本校を強く志望する生徒
- ※ 特に推薦選抜においては、リーダーとして活躍した経験があり、将来にわたり、リーダーとしての資質を伸ばそうとする生徒が望ましい。

学力検査に基づく選抜(一般入試)

- ①志願変更は1回のみ可能。
- ②入試科目は、学力検査(3教科または5教科)、面接、作文、実技等を各高校で決定し実施する。
エンカレッジスクールやチャレンジスクールでは学力検査を実施しない。
- ③主にコース制高校や一部の高校では、特定の教科に比重を設ける「傾斜配点」を導入している。
- ④学力検査は都立高校共通だが、下記の10校は、国数英の3教科で高校独自の入試問題(自校作成問題)を作成している。また、国際高校は英語のみ自校作成問題を導入している。

—自校作成作成問題を導入している学校—

【進学指導重点校】・・・日比谷、戸山、青山、西、八王子東、立川、国立

【進学重視型単位制高校】・・・新宿、墨田川、国分寺

【進学指導特別推進校】・・・国際(英語のみ自校作成問題)

- ⑤学力検査と調査書の比率は7:3(6:4)
- ⑥学力検査と調査書による総合得点。高校によっては面接、作文又は小論文、実技検査を実施しその得点を合計した総合成績を基に選考を行うところもある。

総合成績について

学力検査に基づく選抜は学力検査の成績と調査書点(換算内申)とESAT-Jの結果の点数を合計した点を「総合得点」とします。

<例>5教科・傾斜配点なし・学力検査:調査書=7:3 の場合

学力調査の得点	調査書点の得点	ESAT-Jの得点
↓	↓	(調査書点に含まれる)
(換算後)	(換算後)	↓
700点満点	300点満点	20点満点
<hr/>		
↓		
1020点満点		
↓		
(総合成績) 合否判定		

中学校英語スピーキングテスト結果の活用について

テストの結果で「A」から「F」の6段階で提出された評価を、調査書点(300点満点)に20点満点の点数として取り扱い、320点満点で調査書を算出し、総合得点を1020点満点で算出します。

【2】都立高等専門学校について

5年制の学校で、平成18年4月に工業高等専門学校と航空工業専門学校を統合再編し、平成20年4月から公立大学法人首都大学東京の所管のもと、新たに都立産業技術高等専門学校として開校しました。実験、実践などの体験的学習の時間が豊富なものづくり教育を行います。卒業後は、大学3、4年次に相当する2年間の専攻科への進学や大学への編入も可能です。

選抜方法は都立高校とほとんど同じですが、入学選抜は都立高校より先に行われます。

都立高校と併願できますが、合格した場合には都立高校の受験資格を失います。

【3】国立高校について

願書受付は1月中旬ですが、12月中に締め切る学校もあります。試験も都立高校より早く行われます。選抜の方法は、学力検査(5教科)、調査書、面接、健康診断などを総合して判断します。

【4】私立高校について

(1) 推薦入試

推薦入試といっても様々なタイプのもがあります。合格したら必ずその高校へ入学することを前提として受けるものが推薦です。

特徴としては、

- ①高校ごとに内申点や出欠状況の基準が設けられ、12月中旬から始まる入試相談(高校と中学校の相談日)で出願の可能性を中学校側に伝えられます。
- ②第一志望の場合には1月に推薦入試が行われ、面接や作文で合否が決定されます。
- ③推薦入試で不合格でも、一般入試で再度受験が可能です。

(2) 一般入試

例年2月10日頃から一斉に数日間で行われます。選抜の方法は学力検査、調査書、面接等で総合的に判断します。学力検査の問題は、3教科・2教科で実施する学校がほとんどです。

【入試の種類】

- ・単願推薦 … 特待生推薦 スポーツ(文化)推薦 一芸推薦 自己推薦
- ・併願優遇(一般入試)
- ・第1志望(一般入試)

(3) 都立高校、私立高校の推薦の基準について

都立高校

推薦に基づく入試の意義は、学力検査と異なる選抜方法により、受検者の能力・適性、意欲等をより一層多角的に評価すること。高校が求める資質・目的意識や意欲をもった生徒の入学により、教育活動の活性化を図ることにあります。

令和7年度「東京都立高等学校等入学者選抜における推薦に基づく選抜の基本方針」には、その目的が以下のように記されています。

「基礎的な学力を前提に、思考力、判断力、表現力等の課題を解決するための力や自分の考えを相手に的確に伝えるとともに、相手の考えを的確に捉え人間関係を構築するためのコミュニケーション能力など、これからの社会にあって生徒たちに必要となる力を評価し、選抜する。」

その高校を志望する目的意識が明確であり、上記のねらいをふまえて、9月中旬頃発表される「本校の期待する生徒の姿」に照らし合わせ、今一度、自分の志望理由を明確にします。そして、中学校長がこれらの条件を満たしているかを審査し、推薦者を決定。「学校推薦」(中学校からの推薦)となります。

私立高校

それぞれの学校で、独自の推薦基準を設けていますが、違っている部分は調査書点や出席日数などの扱ただけで、ほとんどの学校が次のような基準・条件です。また、都立高校同様、学校推薦という道筋を経ます。

- (1) 本年度3月卒業見込みのもので、本校を第1志望とする者。
- (2) 出席状況(遅刻・早退も含む)が良好なもの。
- (3) 人物が優れていること。
- (4) 学習成績が推薦基準の条件を満たしている者。

※(2)の出席状況は、具体的に数値を示してある高校がほとんどです。

※(4)の学習成績は評定の合計(調査書点)で示されます。

6 令和7年度入試から

(1) 都立入試の概況

① 学力検査

[全日制]原則すべての高校

一次=5教科 *体育科(駒場・野津田)・芸術科(総合芸術)は3教科と実技検査

二次=3教科 一次・二次とも面接・作文(小論文)・実技は学校により実施

[定時制]原則すべての高校

一次=3教科~5教科で実施

二次=3教科の範囲内で実施 一・二次とも面接は全校で実施

作文(小論文)・実技は学校により実施

② 学力比重

[全日制]原則すべての高校

一次=7:3 *体育科(駒場・野津田)・芸術科(総合芸術)は6:4

二次=6:4

[定時制]原則すべての高校

一次=7:3 または 6:4

二次=6:4 または 5:5

③ 内申換算

学力検査を実施する教科×1倍 学力検査を実施しない教科×2倍

5教科校 $5科 \times 1 + 4科 \times 2 = 65$ 満点

3教科校 $3科 \times 1 + 6科 \times 2 = 75$ 満点

*特定教科の評定についての傾斜配点を行わない

④ 傾斜配点

特別な教育課程を実施している学校について例外的に実施

[普通科コース制]

深川(英2倍)・松が谷(英国各2倍)・小平(英2倍)

[専門学科]

国際(英2倍)・科学技術(数理各1.5倍)・多摩科学技術(数理各1.5倍)

大田桜台(国英社各1.5倍)・千早(国英各1.5倍)・産業技術高専(数1.5倍)

⑤ 男女枠緩和

男女別定員制の緩和(男女別定員制自体も含む)の撤廃

⑥ マークシート

すべての高校でマークシート方式による入試を実施

自校作成問題(国数英)は、記述方式、理社はマークシート方式による解答

⑦各検査の得点分布を公表

推薦入試の面接点、作文(小論文)点、実技点を「推薦に基づく選抜における各検査の得点分布」として、集団討論・面接、作文(小論文)の得点状況が、3月以降のホームページに掲載されるようになりました。

⑧令和7年度入試に関する配慮事項等

「推薦に基づく選抜」「学力検査に基づく選抜」について配慮事項があります。詳細について書かれているリーフレットを7月中旬ごろに各ご家庭に配布する予定です。

(2)私立入試の概況

[私立推薦入試]

○推薦制度の多様化

推薦といっても単願だけでなく、併願が可能な第二志望優遇措置(併願優遇)や自己推薦などの制度があり、推薦でも適性検査を実施する学校も増えています。結果次第で不合格になる場合もあります。受験を希望する学校の入試制度をよく調べて受験することが大切です。

[私立一般入試]

大学付属校や、共学、大学進学実績を伸ばしている学校が、人気を集めている傾向にあります。最近の私立高校入試の傾向として、次のような特徴があげられます。

- ①推薦入試の多様化・・・推薦(単願)や第一志望優遇措置、第二志望優遇措置など。
- ②特進コース・グローバル系コースの設置。
- ③特待生制度の多様化・・・制度を何段階かに分けて、数種類の特待生制度を設ける学校もある。

少子化は、私立高校にも影響が出ています。学校の特色を出し、共学化、特進・選抜クラスの増加、選抜方法の多様化、特待生制度の導入などの変化が激しく、入試の仕組みや選択肢が複雑化しているのが現状です。そこで、私立・都立どちらかを受験するにしても、必ず説明会や、体験授業、部活体験などの行事に積極的に参加してみましょう。学校でも、案内や申し込みを受け付けています。自分の志望する学校には、何回か足を運ぶことも大事なことです。

【心がけてほしいこと】

高校の特色を調べ、自分が何をやりたいのかを考えて高校選びをしていきましょう。進学にあたっては、「より深く学習するために進学する」という基本を忘れず、自分の学力がその高校にあっているかどうか、冷静な判断が必要とされます。10月の第2回の進路説明会では、少なくとも5、6校の見学が終わっているとよいでしょう。

7 今後の予定

月	主な学校行事	進路関係	生徒・家庭での取り組み
4	7(月)始業式 8(火)入学式		【1学期:基礎定着期】 ・自分の適性と自分に合う進路について考える。
5	13(火)音楽鑑賞教室 31(土)運動会	学校説明会・見学会など12月の教育相談までに必ず参加して下さい。	・進路について自分の考えと家族の考えについて話し合う。 ・1年生、2年生の学習の基礎固めをする。
6	16(月)~20(金)質問ウィーク 23(月)~25(水)定期考査Ⅰ	13(金)第一回進路説明会 高校の先生の話の聞く会 26(木)第1回領域診断テスト	・検定試験を積極的に受験する。 ・日々の学習時間を確保し、定期考査前に余裕をもった取り組みをする。
7	1(火)~3(木)修学旅行 4(金)全校漢検(公費) 12(土)土曜授業公開 18(金)終業式 22(火)~教育相談	第一回進路希望調査 ⇒方向性(都立・私立など)	・進路に向けて情報を収集する。 ・高校説明会・見学会へ参加する。
夏休み			【夏休み:総復習期】 ・1年生、2年生と3年生の1学期までの学習項目を徹底的に復習する。 ・高校説明会・見学会へ参加する。
9	1(月)始業式 防災訓練 8(月)3年音羽公開講座 17(水)~質問ウィーク 24(水)・25(木)定期考査Ⅱ	26(金)第二回領域診断テスト	【2学期:志望校決定期】 ・自分の適性、定期考査、領域診断テストなどの結果、教育相談を参考にしながら、最終志望校について家族と話し合う。
10	3(金)全校英検(公費) 18(土)土曜授業公開 29(水)30(木)学習発表会	18(土)第二回進路説明会 第二回進路希望調査 ⇒具体的学校名候補	・学校説明会、体験授業などに参加したり、文化祭などの学校行事を見学する。 ・検定試験を積極的に受験する。
11	1(火)~教育相談 8(土)土曜授業公開 10(火)~質問ウィーク 17(月)~19(水)定期考査Ⅲ	20(木)第三回領域診断テスト 第三回進路希望調査 ⇒最終進学希望校決定 ※推薦・一般・併願など	<12月> ・入試に向けて出願書類作成を始める。(願書準備、自己PRカード、入試スケジュール作成など) ・12月の教育相談までに志望校を決定する。
12	2(火)~教育相談 25(木)終業式	15(月)頃:私立高校入試相談始	
冬休み			【冬休み:志望校対策期】 ・志望校の過去問などに沿って、志望校に合わせた勉強に励む。
1	8(木)始業式 17(土)土曜授業公開 道徳授業地区公開講座	私立・都立推薦入試 出願手続き 私立推薦入試・合格発表 1/26(月)・27(火):都立高校推薦に基づく選抜 2/2(月):都立高校推薦に基づく選抜 合格発表	【3学期:総仕上げ期】 ・体調管理を徹底する。 ・受験当日に実力を発揮できるように朝型の生活習慣を確立する。 ・志望校の過去問や予想問題に取り組む。
2	16(月)~質問ウィーク 24(火)~26(木)定期考査Ⅳ	私立高校 一般入試 2/21(土):都立高校第一次・分割前期 学力調査	・規則正しい生活、気持ちの安定のために受験前でも学校に登校し、授業を受ける。
3	3(火)~6(金)展示発表会 19(木)卒業式	3/2(月):都立高校一次・前期 合格発表 3/10(火):都立高校第二次・分割後期 学力調査 3/13(金):都立高校第二次・後期 合格発表 3/26(木):定時制第二次 学力調査 3/27(金):定時制第二次 合格発表	・受験に向けて自分自身の取り組みに対して肯定的なイメージをもつ。 ・卒業に向けて気持ちを固める。

8 過去3年間の主な進路先一覧

国公立高校				私立高校			
1	都立赤羽北桜高等学校	30	都立文京高等学校	1	青山学院高等部	30	中央大学附属高等学校
2	都立板橋高等学校	31	都立本所高等学校	2	安部学院高等学校	31	帝京高等学校
3	都立板橋有徳高等学校	32	都立桐ヶ丘高等学校	3	郁文館グローバル高等学校	32	貞静学園高等学校
4	都立園芸高等学校	33	都立稔ヶ丘高等学校	4	川村高等学校	33	東亜学園高等学校
5	都立大山高等学校	34	都立三田高等学校	5	錦城学園高等学校	34	東海大学付属高輪台高等学校
6	都立科学技術高等学校	35	都立向丘高等学校	6	慶応義塾大学高等学校	35	東京家政大学附属女子高等学校
7	都立北園高等学校	36	国立筑波大学附属高等学校	7	京華高等学校	36	東京成徳大学高等学校
8	都立蔵前工科高等学校			8	京華商業高等学校	37	東洋高等学校
9	都立国際高等学校			9	京華女子高等学校	38	東洋女子高等学校
10	都立小山台高等学校			10	麴町学園女子高等学校	39	東洋大学京北高等学校
11	都立工芸高等学校			11	國學院高等学校	40	二松學舎大学附属高等学校
12	都立駒場高等学校			12	駒込高等学校	41	日本大学櫻丘高等学校
13	都立産業技術高等専門学校			13	駒澤大学高等学校	42	日本大学鶴ヶ丘高等学校
14	都立忍岡高等学校			14	実践学園高等学校	43	日本大学豊山高等学校
15	都立新宿高等学校			15	品川エトワール女子高等学校	44	法政大学高等学校
16	都立新宿山吹高等学校			16	芝国際高等学校	45	法政大学第二高等学校
17	都立城東高等学校			17	十文字高等学校	46	豊南高等学校
18	都立墨田川高等学校			18	淑徳高等学校	47	堀越高等学校
19	都立高島高等学校			19	淑徳巣鴨高等学校	48	武蔵野高等学校
20	都立竹早高等学校			20	潤徳女子高等学校	49	武蔵野大学高等学校
21	都立竹台高等学校			21	城北高等学校	50	武蔵野大学附属千代田高等学院
22	都立千早高等学校			22	昭和鉄道高等学校	51	目黒日本大学高等学校
23	都立戸山高等学校			23	巣鴨高等学校	52	目白研心高等学校
24	都立豊島高等学校			24	杉並学院高等学校	53	立教新座高等学校
25	都立西高等学校			25	成蹊高等学校	54	早稲田高等学校
26	都立練馬工科高等学校			26	成城学園高等学校	55	クラーク国際高等学校
27	都立農芸高等学校			27	正則学園高等学校	56	N高等学校
28	都立日比谷高等学校			28	専修大学附属高等学校	57	S高等学校
29	都立広尾高等学校			29	中央大学杉並高等学校	58	わせがく高等学校

9 推薦についての確認事項

推薦入試を希望する場合は、以下の条件を満たすことが必要です。

1 高校から示される推薦基準を満たしていること

*都立高校は「期待される生徒の姿」を参考にする

*私立高校は成績の基準、欠席・遅刻の数、人物評価など

2 単願推薦は第一志望の学校であること

●合格した場合は必ず入学すること

●合格した場合は他校の受験は控えること

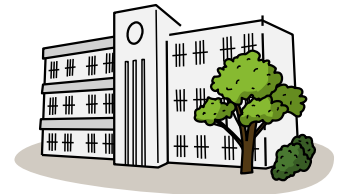
3 併願優遇は、原則として第二志望の学校であること

4 本校の生徒として誇れる生徒であり、学校推薦者にふさわしい下の(1)～(3)の条件を満たしていることを、中学校長が校内の推薦委員会を経て決定します。

(1) 生活上のこと(服装・頭髪・持ち物・生活時間等)で注意を受けることなく、きまりを守り、集団生活を意識した行動ができる。

(2) 真剣に授業を受け、家庭学習を計画的に行い、学力の向上に取り組むことができる。

(3) 進路が決定した場合は、進路を決定していない人への思いやりの心を持ち、学校生活を送ることができる。



10 奨学金制度について

※過去の奨学金制度の例

	奨学金の種類	貸し付け金額	利子	問い合わせ先	締め切り
1	文京区奨学資金 (給付)	公立 60,000円 私立 100,000円	無	教育総務課庶務係 03-5803-1291	3月31日
2	文京区入学支度資金 融資あっせん制度	40万円以内	無	同上	3月10日
3	日本学生支援機構 奨学金 高等専門学校対象	各種設定有り		PCホームページ	
4	東京都育英資金 (予約・入学後)	公立 18,000円 私立 35,000円	無	(財)東京都私学財団 育英資金担当 03-5206-7929	8月24日
5	東京都私立高等学校 等授業料軽減助成	入学後申請 授業料が上限		(財)東京都私学就学 支援金センター 03-5206-7925	(6月下旬 ～ 7月下旬)
6	交通遺児育英会奨学金	月額 2万～4万円 入学一時金は 20～60万円	無	(財)交通遺児 育英会奨学課 03-3556-0773 0120-521286	最終 1/31
7	あしなが育英会	月額 国公立 45,000円 私立 50,000円	無	あしなが育英会奨学課 0120-778565	12/15
8	受験生チャレンジ支援 貸付事業 貸付資金	塾 上限20万円 受験料 上限27,400円	無	文京区 社会福祉協議会 03-3812-3040	区窓口にて 確認

※過去の奨学金の資料です。今年度の資料が届き次第、随時配布して紹介させていただきます。

進路用語集



- ・**素内申**・・・調査書(内申書)の各教科の評定の数字を総計した数値。
主に、私立高校の推薦入試・都立高校の推薦入試で使われる。
- ・**換算内申**・・・調査書(内申書)の各教科の評定を、都立高校独自の算出方法により換算した数値。おもに、都立高校の一般入試で使われる。
- ・**志願倍率(応募倍率)**・・・志願者(応募倍率)÷ 募集定員数
*志願(応募)段階での見かけ上の倍率。
- ・**受験倍率**・・・受験者数 ÷ 募集定員数 実際の受験時の倍率
*募集定員数と合格者が必ずしも同じではないので、見かけ上の倍率。
- ・**実質倍率**・・・受検者数 ÷ 合格者数 実際の倍率。
- ・**適性検査**・・・私立の推薦入試の際に行う小テストや3科や5科に関するテストを指す。
- ・**併願**・・・主に都立高校を第一志望とし、私立高校を第二志望とする場合、その私立高校の受験を指す。原則として都立との併願だが、私立高校の中には私立高校との併願を認める学校も増えてきている。
- ・**延納**・・・私立高校に合格した際、入学金などの納付を公立高校結果発表まで延期できる制度。全ての私立高校にこの制度があるわけではない。
- ・**調査書**・・・中学校側から高校側に受検(受験)の際、提出する書類の総称。
受験に関する資料が記入される。内申書ともいう。
- ・**願書**・・・受験の際、提出する受験申し込みの書類。
都立高校は、東京都教育委員会から各中学校を通して生徒に配布される。(受検希望者が取りに行く高校も一部ある)
私立高校は、それぞれの学校に行き、購入する。
- ・**傾斜配点**・・・コース制や単位制をとる都立高校で採用されている配点方式。
例えば、英語に力を入れている高校の入試では、英語の配点を2倍にするなどして、その生徒の特性をよりよく見極めようとする方法

3年 組 番 氏名: